



## 大会概要

### ■ 開催概要

2025年5月10日(土)

大会会場 公益財団法人大学セミナーハウス

〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1

URL) <https://iush.jp/>

閉会式・大交流会会場 京王プラザホテル八王子

〒192-0083 東京都八王子市旭町 14-1

URL) <https://www.keioplaza.co.jp/hachioji/>

主催：関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

共催：一般社団法人東京建築士会

対象：関東甲信越建築士会ブロック会に所属する建築士  
(建築に興味・関心のある学生参加も可とする)

### ■ タイムテーブル

会場：大学セミナーハウス

10:00-11:30 大会参加者受付(本館3Fラウンジ)

10:00-16:30 各都県・協賛展示会場(大学セミナーハウス全体)

11:00-15:30 昼食・休憩会場(ダイニングホールやまゆり)

11:30-12:20 開会式及び全体会議(講堂及び多目的ホール)

12:50-14:20 地域実践活動報告プレゼンテーション  
(講堂及び多目的ホール)

14:40-16:30 各展示会場自由見学・体験

会場：京王プラザホテル八王子

18:00-18:30 閉会式及び審査結果発表(翔王の間)

18:45-20:45 大交流会(立食形式)(翔王の間)

### ■ アクセスについて

公共交通機関をご利用の場合

①大学セミナーハウス

JR八王子駅からバスで約20分

京王北野駅からバスで約10分

京王南大沢駅からバスで約20分

バス停「野猿峠」から約5分

[https://iush.jp/access/train\\_bus/](https://iush.jp/access/train_bus/)

②京王プラザホテル八王子

JR八王子駅から徒歩約3分

<https://www.keioplaza.co.jp/hachioji/access/>

専用シャトルバスをご利用の場合

京王プラザホテル八王子と大学セミナーハウスの間で参加者専用シャトルバスを運行予定です。

時刻表等の詳細は参加申込後にご案内します。

自家用車をご利用の場合

大学セミナーハウスには駐車場がありません。JR八王子駅近くのコインパーキング等をご利用いただきシャトルバスにてご来場ください。

### ■ 関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会について

関東甲信越の建築士会(群馬・山梨・神奈川・栃木・埼玉・茨城・長野・新潟・千葉・東京)からなる関東甲信越建築士会ブロック会内に位置づけられ、各都道府県建築士会に所属する若手建築士で構成されている。10都県共通の問題を協議・調整し、会員相互の情報連絡を計り、若い力を結集し進展する社会に対応する魅力ある建築士会の発展に貢献することを目的に活動を行っている。

### ■ 関ブロ東京大会について

50年近く続く関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会大会、略称「関ブロ大会」とは、関東甲信越建築士会1都9県の「青年建築士」と呼ばれる若手が主体となって毎年開催地を変えて行っている、全国大会の次に規模の大きな催しとなっている。この大会は建築士としての専門性を高め、各自が大会で得た知識や人脈を持ち帰り、それらを自らの活動や地域社会の課題解決へ生かすことを目的にした、青年建築士にとって重要な場として代々受け継がれている。東京建築士会が11年ぶりにホスト県となった関ブロ東京大会では、「東京空間万博2025」を大会テーマとし新しい時代の建築士のあり方、建築技術の向上を目指して熱い議論を展開する大会を目指している。

### ■ 後援

公益社団法人日本建築士会連合会

一般社団法人東京都建築士事務所協会

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部

一般社団法人日本建築学会 関東支部

八王子市

公益社団法人八王子観光コンベンション協会

大学コンソーシアム八王子

公益財団法人大学セミナーハウス

### ■ 本大会に関するお問い合わせ先

一般社団法人東京建築士会事務局

(関ブロ東京大会担当：鈴木)

TEL：03-3527-3100 FAX：03-3527-3101

Mail：info@tokyokenchikushikai.or.jp

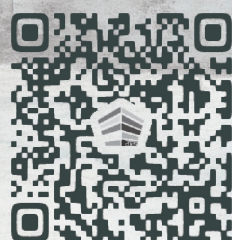
### ■ 詳細・参加申込について

大会公式HPにて最新情報・大会申込を受付中!

士会関係者参加申込締切：~3/21(金) 予定

学生関係者参加申込締切：~4/26(金) 予定

<https://tokyokenchikushikai.or.jp/zseinen2025/index.html>



関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会 東京大会

# 東京空間万博

2025年5月10日(土)

会場 公益財団法人大学セミナーハウス

# 2025

# 大学セミナーハウス

「大学セミナーハウス」は近代建築の巨匠ル・コルビュジエの元で学んだ吉阪隆正の設計により、1965年に建てられ、創設者である飯田宗一郎の「大学セミナーハウスとは建築と人間と理念の総合である」という理念を体現した建築である。

時を重ねた建築群からは、建築家吉阪隆正の活動理論「不連続統一」(Discontinuous Unity)を、組織論、設計論、造形論として読み解くことができる。そして、平和への思いから建築を志した吉阪隆正が「有形学」を提唱し、人のつながりをつくるために提案した建築の役割、形の役割の大切さを見直す機会になることを望んでいるのである。この建築は、はじめに「言(ことば)」を創ることからはじまったものであるが、大学セミナーハウスにはまつわる言説が数多く存在する。「新しい大学のありかたを、ここ袖木の丘に打ちたてるべく楔を打ち込んだのだ」「入口は狭いようでも中へ入ると広く深く、あちらこちらはずっとつながっていて、学問とはそんなものだ」「かつてハイカーたちがゴミを残していった所は、人々が好んでたむろする所だ」「一人一人が己の城を持つことが、自分の意見をもつようになるもどだ」「部屋が四角いと、どうしても上下の席ができるが、多角形だとお互い同格になりやすい」「同じ中庭に面すると、連帯感が生じやすい」「二つのものが向き合うと対立が生じやすい」「遠くて不便なことが、偶然の出会いの機会をふやす」…。

その実現化の過程で、吉阪は大きく三本の柱を立てた。

- ・美しい多摩の丘陵を傷つけずに生かすこと
- ・200名をどんなグループ分けにするか
- ・大学セミナーハウスを象徴する形は何か

## 大会で得られること

- 1 若手建築士が地元地域で行った、建築士だからできるワークショップや地元企業とタイアップした見学会などの活動に関するプレゼンテーションが見られる！
- 2 参加者はさながら学園祭に来た感覚で、自由に建物見学をしながら「パビリオン」内の展示や、他県の方と一緒に模擬体験などを通じて交流することができる！
- 3 東京建築士会の賛助会員企業による企業パビリオンでは、最新の技術情報や資格獲得に向けたアドバイスを受けること等が可能！

本館  
3F 大会受付 / 4F パブリックビュー会場

長期館  
埼玉 / 千葉パビリオン



### 本館



大地に楔を打ち込んで「ここが大学セミナーハウスだ」と主張する、象徴的な建物である。設計も終盤にさしかかり、計画がほとんど99%決定した段階における本館の形は、今のものとはまるで違ったものであった。それがある日、ヒョイと逆さにされた模型を見て、この形態が「大学セミナーハウス」のすべてを、理念も、哲学もそして要求機能をも満足しそうだと言った瞬間にして感じて現在の形となった。起伏の多い土地に広場をつくり、最上階には全員が集まる食堂を配置する合理的な形でもある。

講堂  
開会式 / 地域実践活動報告会

大学院セミナー室  
協賛企業パビリオン②

図書館セミナー室  
協賛企業パビリオン①

さくら館

記念館  
栃木 / 群馬パビリオン

松下館

中央セミナー室  
東京 / 神奈川パビリオン

国際館  
長野 / 山梨 / 新潟パビリオン

ダイニングホールやまゆり  
昼食・休憩会場

交友館  
茨城 / 日建学院パビリオン

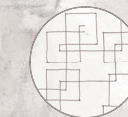
ユニットハウス



### ユニットハウス



200名の想定に対し、2名1室で100棟計画された宿舎「ユニットハウス」は、当初は寝台車を並べることも考えられていたという。そこから宿泊施設であるユニットハウスと、それをつなぐ移動コミュニティーの形態に変化した。開館当初は7群からなる「村」であったが、現在は1群のみが残る。この丘陵の地形を生かしながら、一つの村をつくるように、関係を形にし、建築で人のつながりをつくる。「階段は意思、廊下と斜面は情緒、橋は夢」と設計担当の松崎義徳は語る。大半が失われた今、地域とのつながりが深まり、自然を生かす活動が展開され、セミナーハウスの追求する理想が新たな時代を築いている。



### 長期館



8期にわたる成長を続けた大学セミナーハウスであるが、長期館は第4期に計画された。長期滞在や、教職員や社会人の研修での利用を想定し、学会や教育団体、社会人団体の学際的研究会、シンポジウムの場として意図されたのがこの宿泊施設である。大学セミナーハウスでは、最初から「一度やったことは二度はやらない」と決められていた。長期館を計画するときには、曲線は使わない、斜めも使わない、とにかく水平と垂直で行くというものが前提としてあった。そうして生まれたのが、この「ぐるぐる、だんだん計画」である。